

コロナ禍におけるひきこもり支援

【団体名】特定非営利活動法人 糸ぐるま

【担当部署】健康福祉部 生活支援課

【提案型】指定テーマ

1. 事業の目的

ひきこもり問題は、社会問題として顕在化しており、コロナ禍でより一層の孤立など厳しい状況にある。その中で、ひきこもり問題に悩んでいる本人やその家族等に対して相談支援を行うことにより、ひきこもりの長期化や孤立の予防等を目的とする。

2. 実施内容

○ひきこもりの相談（電話・窓口）、家庭訪問などの支援活動

○窓口相談開催

	開催日	場所
第1回	令和3年5月21日（金）	NPO法人 糸ぐるま
第2回	令和3年6月24日（木）	
第3回	令和3年7月21日（水）	
第4回	令和3年8月17日（火）	
第5回	令和3年9月13日（月）	
第6回	令和3年10月22日（金）	
第7回	令和3年11月25日（木）	
第8回	令和3年12月23日（木）	
第9回	令和4年1月25日（火）	
第10回	令和4年2月21日（月）	

※上記日程のほか、必要に応じて窓口相談を実施

○令和3年度 相談件数

- ・電話・メール相談 のべ74件
- ・窓口相談 のべ29件

3. 役割分担

団体：ひきこもりの相談者に対しての相談、家庭訪問などの支援活動

市：相談窓口の広報周知、福祉関係機関等との連絡調整

4. 事業費と主な支出内容

(1) 事業費：総額 106,565 円（うち蕨市協働事業補助金 100,000 円）

(2) 支出の主な内容

報償費（精神保健福祉士人件費・講師謝礼）、コロナ対策費（飛沫防止卓上アクリル板など）

研修費（ひきこもり研修会参加費）、印刷製本費（開催パンフレットなど作成）

5. 協働による効果

ひきこもり専門の相談窓口の明確化と周知により、相談を希望する方が、対応する窓口に迷わずに相談できるようになった。また、1年間の事業実績から、蕨市におけるひきこもり問題の実態を知ることができた。

6. その他の成果・感想・今後の課題など

【団体より】

年10回の相談会を実施し、蕨市における引きこもり問題の多様な実態が浮かび上がってきたと感じている。年齢、性別、おかれている環境、そうなった原因、家族背景、学歴、職歴、ひきこもっている期間など同じ状況はない。支援のあり方も、就労、外に出ること一辺倒では解決とはならず、より多様な価値観、専門性、時には新しいアイデアが求められ、スタッフの研鑽、マンパワーも重要だと感じた。その中で他機関との協力の重要性、心強さを痛感した。

国の方針としてもひきこもりへの取り組みがクローズアップされているが、我々NPOができる支援、自治体や保健所が取り組むべき支援との役割分担や連携も今後の課題と感じている。

【担当課より】

ひきこもり問題の性質上、問題の解決には時間を要すると考えられるが、今後も継続的な支援を通じて、悩みを抱える本人やその家族に寄り添い、少しでも相談者の悩みや不安、苦しみを和らげることを期待する。